『**ウンダラかんだら製作記録　～I Can't Call You～** 』　2011/11/7 公開作品

この曲を作りかけたのは夏の終わりだった。 性格悪いくせにロマンティストな寂しがりやさんである WAJIN は、風に秋を感じる頃になると、ことさらに人恋しくなってしまうのである。
で、ある夜、星を見上げていて頭に浮かんだのがこの曲のサビメロと「I can't call you」という歌詞。
以下、このサビのみを揺るがない軸として創作されていった。

♪♪♪レシピ♪♪♪

【音スカスカなデモ MIDI データをひろこたけ氏に送る】
ざっと A→B→C の曲展開を作り、アレンジをやりかけたところで行き詰まる WAJIN。
困った事に、なんでだかどうしてもドラムのパターンを思いつかない。
多分、すっっごく普通な８ビートぐらいしか乗せられない。でも、それじゃ面白くもなんともない。弱った。困った。
数日間寝かせてみたがどうにも進展しそうにないので、”オールマイティかつ、ありきたりでないドラムを入れられそうな方といえば、ひろこたけさんだろう。”という事で 、ひろこたけさんにドラムを入れていただけないかどうかお伺いを立ててみた。
その時送った MIDI データがヒドイのなんの。 メロは全て仮で、エレピとベースとベルとストリングスがループしているだけの状態。展開もアウトロもなし。
それでも「なんとかなるでしょ。」とのお返事。 うぬー、さすが我が駆け込み寺の和尚様は何事にも動じないお方であった。

【ドラムに感動する】
いくらマエストロひろこたけ氏といえども、あそこまでスカスカの作りかけデータでは料理しようがないので取り急ぎ曲を最後まで完成させ（でもメロはまだ仮）、ドラム以外のパートは全部アレンジしてしまった。
その状態でひろこたけ氏にお渡しして、わずか１日２日でドラムパートのデータが送られてきた。 聴いた瞬間に思った。この曲のオケの主役はドラムであると。
心密かに期待していたとおり、いやそれ以上にエレクトリックである意味ぶっ飛んだドラ

ムで、バックのストリングスだのホルンだのには目もくれずそこに存在し、それでいて曲全体の雰囲気を壊すどころか更に色を増してインパクトを与えてくれる素晴らしいドラムパート！
もう、このドラムパートの為なら死んでもいいと思ったね。
いやほんと、それぐらい感動した。幸い死んではいないけど。

【Kin'sRoo さん受難の日々】
オケが出来たら、今度はいよいよメロと歌詞だ。 え？なんか順序がおかしいんじゃないかって？ そう、この曲は創作手順がもう無茶苦茶だったのである。
こちとら、頭の中にはただただ「I can't call you~」って言葉しか抱えていなかったしね。
それだけで衝動的に作っちゃった曲だもんで、無茶苦茶。
いいのよ、別に。いいんだいいんだ。 自分はとても寂しい気分になっていて、とにかく大好きな仲間達と接したくてたまらなかったので、この曲を作った。
で、この曲を踏み台にしてコミュニケーションを取っているんだから、順序なんて出鱈目な方が好都合じゃないか。ハタ迷惑この上ないだろうけど。
白羽の矢が立ったお二人目が Kin'sRoo さんというわけだ。 ことわっておくが、思いつきで Kin'sRoo さんにヴォーカルをお願いしたわけではない。
ひろこたけさんにドラムをお願いするより前から、この曲を作りかけた時から、「この曲を歌モノにするなら歌は Kin'sRoo さん。」と勝手に決めていたのだ。
で、Kin'sRoo さんも予想通りに引き受けて下さったので、これはウンダラ作品と成り得たわけ。
でも Kin'sRoo さん、きっと「面倒な事を引き受けちゃったなー。」と後悔されたんじゃないかしらん。
改めて作ったメロは、とりわけ A メロがかなり難易度高くてシンガーさん泣かせ。
自分の曲はしばしば唄いにくいと言われてきたが、その理由として音の跳躍が多い事や転調に伴う半音階での移動が多い事、
そして言葉の乗せ方が難しい事にあると思う。この曲は特に好き勝手やっちゃったからねえ。
Kin'sRoo さん唄いにくいだろうなと思って、一度は詩の言葉数を増やしてリーディング作品にしようとしたのだけど、せっかくリーディングしていただいたものの、やっぱりなんかちょっと違うなと。

歌モノとして作った曲とかオケは、やっぱり歌が乗った方が良いのよね。
結果、また歌モノに戻す事にして、歌詞の足りない部分はKin'sRooさんにお任せする事になってしまった。
ご迷惑おかけしまくりだったけれど、おかげでグッと良くなった。
自分が書く歌詞は結構固い感触の直線的な言葉が乗ったものになりがちなところ、Kin'sRooさんが言葉を足して下さった事によって歌心が加わり、マイルドでメロウな印象になった。
その分、良い意味での甘さが出てラヴソングっぽくなったけれど、それはそれでいいと思っている。
これはコラボなのだから、自分が思いつくのとは異なるカラーが加わる程面白いし、コラボする意味がある。だから、大成功なのだ。

【音づくり】
音づくりに関しても一応書いておこう。
この曲に関しては、生演奏は一切ナシ。MIDI音源の音のみ。
エレピとベースのメイン音色と４つぐらいあるストリングスパートの一つがENSONIQシンセ。
パッドで一つKurzweilシンセの音が入り、２コーラス目のAメロとかギターソロの手前なんかでシャーとかジャキッとかいっている効果音みたいなのがEASTWESTのソフトシンセ。　後は全てRolandのSC-88Proである。
ギター音色に関しては、SCの音そのままでは弱いのでENSONIQのエフェクターを通して音を作った。
ドラムも、SCの音そのままでも全然悪くはなかったのだけど、バスドラをより強く出したかったのでENSONIQのエフェクターを通してみた。
マスタリングには相当時間かけたし、あれこれ試行錯誤したなあ。
左右に広がる音像より、奥行きのある音像が欲しかった。
ほとんど自分のイメージする音像まで持っていって、どうしてもあとほんの少し納得いかなかった部分だけ、我が家のプロエンジニアに手伝ってもらった。
大いに感謝しているけど、ちょっと悔しい。（笑）　自分の作りたい音は自分で完璧に作れるようになりたいものだ。

【完成して】

全然意識していなかったけど、ウンダラも結成して１０年経過するのね。

１０年経っても、変わらずにそこに存在してくれて、一緒に音楽してくれる仲間がいてくれる事に心底感謝する。

自分の我が侭な創作意欲だの寂しさだのに付き合ってくれて有り難う！！と、声を大にして言いたい。いや、言葉では言い尽くせないな。

抱きしめたいぐらいなんだけど、そこは「I Can't Hold You 」。 物理的な距離がある。

この先、また皆で顔を合わせる機会があるかどうかもわからない。

だから、この曲を、ウンダラのメンバーに捧げます。